令和４年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

令和５年１０月

仙台市教育委員会

はじめに

このリーフレットは，仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき平成29年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の，令和４年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので，各校における学校図書館運営の参考としていただき，子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと存じます。

また，仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）についても抜粋して紹介していますので，取組を進めるにあたって，本市の子ども読書に関する目標や考えを今一度ご確認いただければ幸いです。

◆◆◆◆◆◆◆ 目次 ◆◆◆◆◆◆◆

１　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（１）計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）計画の目的と基本的方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（３）成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（４）重点的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（１）計画における位置づけ・事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・３

（２）令和４年度モデル校の取組事例紹介

・北六番丁小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

・金剛沢小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

・川前小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

・馬場小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

・黒松小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・将監西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

・南吉成小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

・秋保中学校・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

・鶴谷特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

（３）令和４年度モデル校事業の総括・今後・・・・・・・・・・・・・・22

1　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（1）計画の策定

平成 13 年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ，仙台市においても，平成 17 年度からの仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画，平成 24 年度からの第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は，**平成 29 年度から令和５年度まで**の７年間を計画期間とした**「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」**（以下「第三次計画」）に基づき，様々な取組を推進しています。

（2）計画の目的と基本的方針

計画の目的

子どもが自ら読書を楽しみ，人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では，子どもが読書に親しむだけでなく，自ら進んで楽しく読書することを通して，様々な知識や経験や考え方に触れることを目的としています。また，身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び，人生をより深くより豊かに生きることができる力を身に付けられるよう，多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また，この目的を達成するために次の４つの基本的方針を掲げています。

基本的方針

（１）子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ，大切さを知ることができるよう，家庭，地域，学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また，子どもの発達段階に応じた読書支援を行い，子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

（２）子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び，本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに，子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組みます。

（３）子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し，読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに，子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて，社会全体で子どもの読書活動を推進します。

（４）家庭，地域，学校，図書館，ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し，連携を図りながら計画を推進します。

（3）成果指標

計画の推進状況把握のため，目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

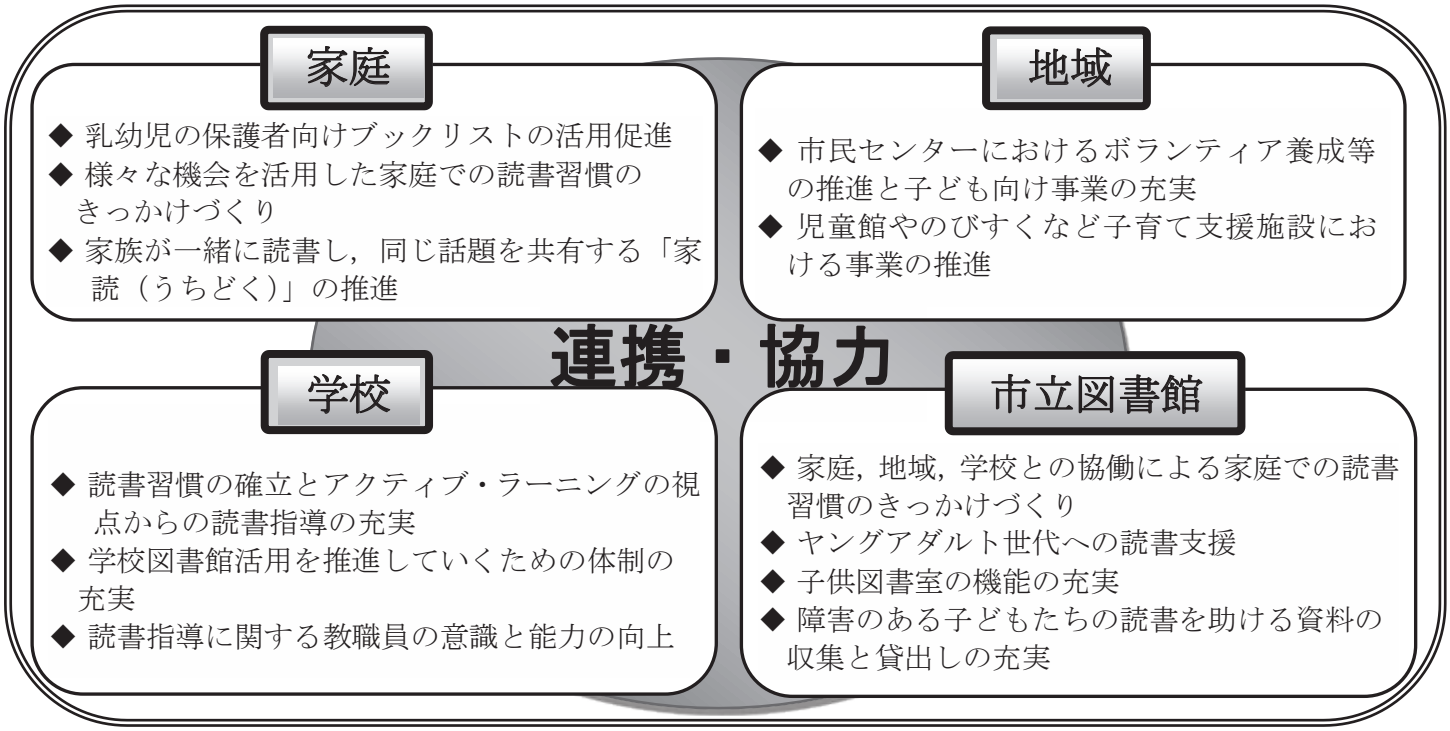
しかし，読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく，子どもたちの感性を磨き，表現力を高め，創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

成　果　指　標		第二次実績（平成28年度）	第三次目標（令和５年度）
家や図書館でふだん（月～金）１日に30分以上読書する児童・生徒の割合（教科書，参考書，漫画，雑誌を除く。）	小６	39.3%	45.0%
	中３	30.8%	35.0%
昼休みや放課後，学校が休みの日に，学校図書館や地域の図書館へ月１回以上行く児童生徒の割合	小６	39.4%	45.0%
	中３	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数（15歳以下１人あたりの平均蔵書冊数）		5.2冊	5.5冊
市立図書館児童書貸出冊数（15歳以下１人あたり年間平均貸出冊数）		9.0冊	10.5冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数（１人あたりの年間平均貸出冊数）	小	39.8冊	37冊（※１）
	中	6.3冊	9冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249名	12,000名
１か月に１冊も本を読まない子どもの数（不読率）	小	―	3%（※２）
	中	―	12%（※２）

※１　計画期間中，毎年度37冊を目標とする。
※２　平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では，仙台市の不読率は小学生5.9%，中学生16.5%。国の第三次基本計画では，計画５年目の平成29年度の指標として，小学生3%以下，中学生12%以下として設定している。

（4）重点的な取組

計画の目的を達成するために，４つの基本的方針のもと，家庭・地域・学校・図書館という４つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ，計画の推進を図っています。



2　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（1）計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では，学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており，その具体的取組の１つとして平成 29 年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では，学校図書館を利用する児童生徒を増やし，子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として，学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し，図書購入費などの重点配分を行います。

令和４年度は，学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組を期待する学校などをモデル校に認定し，図書購入費及び備品購入費の重点配分を行いました。

＜令和４年度モデル校＞

学校種別	学校名	重点配分額（図書購入費）	重点配分額（備品購入費）
小学校（７校）	北六番丁小学校	150 千円／校	85 千円／校
	金剛沢小学校		
	川前小学校		
	馬場小学校		
	黒松小学校		
	将監西小学校		
	南吉成小学校		
中学校（１校）	秋保中学校		
特別支援学校（１校）	鶴谷特別支援学校		

（2）令和4年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において，読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと，重点配分予算を活用した図書購入や備品等購入による読書環境整備，それらを含め図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

令和４年度も感染症対策の観点を踏まえて，各校工夫した学校図書館運営を行っていただきました。特に，図書室のレイアウト変更や配架の工夫，移動式書架の設置等を行い，児童生徒が読書に親しみやすい環境整備を意識した取組が多く見られ，本への興味関心を引き出していただきました。また，保護者の協力も得ながら家庭と連携した取組を行うなど，学校ごとに工夫した読書活動を実践していただきました。

北六番丁小学校

【児童数：343 人】
（Ｒ４.５.１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書館や読書に親しみやすい環境を整備することにより，読書習慣の確立を図り，年間 40 冊以上読書する児童の割合 70％を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●学年によって図書館の貸出冊数に偏りがあり，図書館の本を全く読まない児童が一定数いる。
●内容が学年相当ではない本，漫画のような本も多いので，各学年に合った書籍を増やして児童の読書意欲につなげたい。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　児童・保護者による選書会の実施【新】

●児童による選書会を実施し，それをもとに図書購入を行った。また，授業参観に合わせて保護者にも選書会に参加してもらい，児童に読ませたい本の希望を集約した。

２　「読書タイム」の設定【新】

●毎週水曜日の朝の時間を全校で「読書タイム」とし，図書室から借りた本や自宅から持参した本で，読書活動に取り組んだ。

３　本の紹介や貸出冊数の月掲示【継】

●家庭学習「読書の記録」から本の紹介文を年３回，学級３名選び，低・中・高学年ごとに図書室に掲示した。また，図書委員会の活動として，毎月１人４冊以上の貸出を目標とし，目標に達した割合を学級ごとにグラフとして掲示した。

【読書の記録】

４　「プラス１冊クーポン」の実施【新】

●読書週間のイベントとして，貸出合計冊数の目標を１年生 30 冊，２～６年生 50 冊と決め，目標に達した学級の児童全員に，通常の貸出冊数より多く借りることができる「プラス１冊クーポン」を配付した。

５　学級文庫の全学級設置【新】

●「読書タイム」の設定に合わせて，これまで１，２年生のみに設置していた学級文庫を全学年に設置し，１学級 20 冊の本を常備した。

６．移動書架の設置【新】

●図書費で国語の教科書で紹介されている図書を購入，備品購入費で購入した移動式書架に配架して廊下に配置した。

取組による効果

１　児童・保護者による選書会の実施【新】

●児童自身が本を選ぶことにより，図書に対する関心が高まり，図書の入荷に合わせて利用者が増えた。また，保護者にも選書に参加していただいたことで，児童の読書に対する意欲向上につながった。

２　「読書タイム」の設定【新】

●朝の一定時間，集中して読書に取り組む姿が見られた。また，読書タイムに読む本を準備するために，図書館を利用する児童が増えた。

３　本の紹介や貸出冊数の月掲示【継】

●自分の紹介が掲示されたり，友達の紹介を見たりすることを楽しみにしている児童もおり，図書館に足を運ぶ機会が増えた。また，学級の貸出冊数を毎月掲示することで，貸出に対する意欲の喚起につながった。

【読書週間の様子】

４　「プラス１冊クーポン」の実施【新】

●目標を達成した学級の全員にクーポンがもらえるという企画に楽しんで取り組み，読書週間には，多くの児童が図書室に来て本を借りた。結果的に全学級で目標を達成することができた。

５　学級文庫の全学級設置【新】

●「読書タイム」のみならず，日常的に学級文庫の本を読む児童が見られ，読書習慣につながった。

６．移動書架の設置【新】

●身近に図書がある環境を整備することで本を手に取る児童が増え，関連本を借りるため図書室を訪れる児童も見られるようになった。

目標の達成状況

●今回，達成目標である「年間 40 冊以上読書する児童の割合」を正確に集計することができなかった。しかし，学校図書館の本を 40 冊以上借りた児童は 58%であり，昨年度より増加した。

●児童の貸出冊数の総計は，昨年度 21,484 冊に対し，今年度は 22,258 冊と，770 冊近く増加した。児童一人当たりの年間平均貸出冊数は，中学年を除く４学年で５～30%の伸びが見られ，多様な取組の成果が感じられた。今後，読書記録などの取組等も検討し，児童の読書習慣を定着させていきたい。

取組を振り返って

●「読書タイム」や学級文庫，移動書架等の取組から，児童が本に親しみ，読書週間を身に付けるためには，日常的に集中して読書に取り組む時間を設けることや，本に触れる環境を整備することが効果的であることを感じた。

●読書の記録や貸出冊数の掲示など，図書委員会の活動を通して自分たちの読書の様子や貸出の実態を知ることは，年間を通した継続的な読書への働き掛けにつながった。また，「プラス１冊クーポン」などのイベントにより友達と一緒に図書室に足を運んだり，本の話をしたりするなど，児童が本に興味を持つための工夫を行うことで，楽しく本に親しむ機会をつくり，読書への興味を高めることができた。さらに，選書会などを通して保護者へ働き掛けることは，児童の読書傾向や最新の児童書について知ることができ，児童の読書に関する保護者の理解につながると考える。

●今後も，図書主任を中心に日常活動，委員会活動，イベント，環境整備などさまざまな場面でアイデアを出し合い，児童の読書推進，図書室の活性化につながる取組を実践していきたい。

◆　注目 POINT　◆

●**本の紹介や貸出冊数の月掲示** … 自分の紹介が掲示されたり，友達の紹介を見たりすることを楽みにしている児童もおり，図書室に足を運ぶ機会が増えました。

●**「プラス１冊クーポン」の実施** … 目標を達成した学級の全員にクーポンがもらえる企画に楽しんで取り組み，読書週間には，多くの児童が図書室に来て本を借りました。

金剛沢小学校

【児童数：458 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ 事業実施目標 ◆

・進んで読書に親しむ児童を増やすため，本を手に取りやすい環境整備を行う。
・一ケ月の平均読書冊数０冊の児童を減らす。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●上学年は行事や学習内容が多く図書室利用が難しいため，読書の機会が少なくなっている。
●地震対策のため書架が低く，図書室に置ける冊数が限られる。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　朝読書の実施【継】

●月曜日と木曜日の朝の15分を読書タイムとし，全校で読書に取り組んだ。仙台市図書館のせんだい電子図書サービスを紹介し，個々の端末から読書ができることを紹介した。

【せんだい電子図書館の利用】

２　配架の工夫【継】

●新刊や人気の図書，季節の行事に関連した図書の紹介を行った。

３　委員会児童の選書による「おすすめコーナー」の設置【新】

●図書費でブックトラックを購入した。図書室から遠い高学年の階に設置した。選書を委員会の児童が担当しポップを飾って紹介した。

４　図書配送サービスの実施【新】

●オーダーシートに欲しい図書のリクエストを記入することで教室に図書が届く取り組みを実施した。

５　保護者対象の読書アンケートの実施【新】

●保護者が子供の頃に読んでいた図書についてアンケートを取った。書名が分かる物は図書室で配架し紹介した。

取組による効果

１　朝読書の実施【継】

●落ち着いた雰囲気の中で行うことができ，読書の楽しさを味わわせることができた。せんだい電子図書サービスを利用することで，新しい図書に触れる機会を増やすことができた。

２　配架の工夫【継】

●ふだんの配架の工夫に加え，「理科関連の図書」の紹介を行った。本校では人気が高まりつつあるテーマであったため図書費で購入した。目立つ場所への配架によりふだんは借りない児童

【理科関連の図書の紹介】

にも興味を持たせることができた。

3　委員会児童の選書による「おすすめコーナー」の設置【新】

●友達が選書した図書が並ぶため，興味や関心を高めることができた。また，忙しい高学年でも図書を手に取りやすい環境を作ることができた。飾られているポップから選書したテーマを読む児童の姿も見られた。

4　図書配送サービスの実施【新】

●授業や朝読書での活用が増えた。選書の時間を短縮することで担任の負担感を軽減しながら図書に触れる機会を増やすことができた。

5　保護者対象の読書アンケートの実施【新】

●実施後，保護者が読んでいた図書の貸出が増えた。児童からも，「一緒に読みたいから借りてきてほしいと言われた。」との声が聞かれ，家庭での読書に関する関心が高まっていると感じた。

目標の達成状況

●「おすすめコーナー」の設置や図書配送サービスの実施，電子図書館の活用により児童が読書しやすい環境にすることができた。

●１ケ月の平均読書冊数０冊の児童を，昨年度の 40 人（全校児童の 8.5%）から７人（1.5%）に減らすことができた。しかし，朝の読書タイムや休み時間の図書室割当があるにも関わらず，図書を手にしない児童がいたことは残念な結果であったと言える。

取組を振り返って

●本を選ぶこと，読むことを毎日の生活の中で自然に行うことができるように環境を整えてきた。手に取りたくなるような配架の工夫や読書する時間の確保を行うことができた。高学年や読書が好きな児童は，長い読み物をじっくりと読む姿が見られるため，冊数ではなく，読書環境を整えることが重要だと感じた。

●今後は，図書から得た情報を活用した取り組みや読んだ感想を紹介する活動など，読書習慣が定着した後の取り組みも行っていきたい。また，教職員の読書に対する意欲を高めることで，積極的な取り組みができると考える。児童や学校の実態に合わせながら様々な取り組みを行うことで，多くの児童に読書の楽しさを味わわせていきたい。

◆　注目 POINT　◆

●図書事務と図書担当教員との連携により，教員と図書室がつながり，児童が図書を手に取りやすい環境を醸成。

●読書環境を整えることで，読書の質の向上。

川前小学校

【児童数：496 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

文章量の多い良質な図書を進んで選び，じっくりと読む活動を通して，生涯を通じて豊かな読書生活を営む素地を養うために，図書館活用のスキルを身に付けさせるとともに，図書館環境の充実を図る。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●本の貸出冊数は多いようだが，貸出履歴を見ると，漫画や図鑑等文字の少ない本を繰り返し借りる児童が一定数おり，質の良い読書習慣が身に付いていない。
●高学年になると図書室利用そのものが減少傾向にある。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　「家読の日」の親子読書の推奨【継】
●「今月のマイＢＯＯＫ」に親子で感想を書き，交流する活動を継続した。高学年では，クロームブックを使い，感想などを入力し，読書記録として活用した。

２　図書委員による読書啓発活動【新】
●「図書まつり」だけでなく，毎月，図書クイズや本の紹介などの活動を行い，読書に親しむきっかけを作る。

３　季節や時事ニュース，学習関連図書の計画的な展示【新】
●図書室前の廊下に，コーナーを作り，毎月計画的に掲示・展示を行った。

４　図書館だよりの発行【新】
●図書館からのお知らせだけでなく，毎月の展示・掲示や委員会活動と関連付けた図書館だよりを発行した。学校のＨＰにも掲載し，広報活動を行った。

５　夏休みや放課後の図書館開放【新】
●懇談会など保護者が来校する機会や夏休みに図書館開放を行い，保護者も利用できる機会を作った。

６　「先生この本読んで」のコーナーの設置【新】
●担任による読み聞かせに向く本を選び，職員室前にコーナーを作った。粗筋や内容項目を書いたカードを添え，担任が短時間で選書できるようにした。

７　学年貸出・移動書架の活用【継】
●本事業の予算で購入したファイルラックやコンテナを使い，国語の発展読書等で使う図書資料のコーナーを作った。

８　児童による選書会【継】
●本事業予算で，全校児童による選書会を実施し，児童が読みたいと思う本を購入した。

９　配架の見直しと，オリエンテーション【新】
●司書教諭が国語の指導内容に合わせワークシートを作り，担任がオリエンテーションを行った。また，公共図書館の利用も見通して配架をし直した。

【児童による選書会】

10　読書賞の見直し【継】
●読書量の多い上位数名の表彰から，目標値を達成した全員を表彰することに変え，春に目標値を示した。

取組による効果

１　「家読の日」の親子読書の推奨
●家庭学習カードの毎月 11 日の「家読の日」の欄を設け，児童・保護者への啓発を行い，定着している。「今月のマイＢＯＯＫ」に親子で感想を書いて交流したり，クロームブックを使って友達と感想を交流したりすることで，内容を読み味わう児童が増えた。

２　図書委員による読書啓発活動
●図書委員が作った図書クイズや本の紹介カードなどを掲示し，本も一緒に展示した。クイズに参加した児童にはポイントシールを渡した。ポイントがたまると「３冊貸出」が受けられるゲーム性もあり，友達と一緒に本を見ながらクイズに答える児童の姿が見られた。

３　季節や時事ニュース，学習関連図書の計画的な展示

●季節や話題になっているニュースなどに関するテーマ展示を行った。図書室に入る前の廊下にコーナーを設置したことで，必ず本や掲示物を見ることになり，自分では選ばない本も手に取ってみたり，借りたりしていた。読書への興味・関心を高め，読書の幅を広げる効果があった。

４　図書館だよりの発行

●図書館からの連絡だけでなく，展示している本の紹介コーナーを設け，読書案内としても活用できた。図書室の入り口に拡大したものを掲示し，学校のＨＰにも掲載することで広く広報活動を行うことができた。

５　夏休みや放課後の図書館開放

●夏休みの開放では，保護者への貸出しも行った。まだ認知度が低いこともあって利用が少なかったが，児童と一緒に来館し，一緒に本を探したり，保護者も貸出を受けたりしていた。保護者が図書館に足を運ぶ機会を増やすことで，家庭での読書活動の推進にもつながると期待している。

６「先生この本読んで」のコーナーの設置

●国語・道徳の教科書で取り上げられている本は図書館内にコーナーを作り，いつでも利用できるようにした。また，職員室の近くに読み聞かせ用の本のコーナーを作り，担任が短時間で選書し，読み聞かせができるようにした。特に，下学年の担任がよく利用していた。担任の読書に取り組む姿勢が，児童の読書意欲の向上につながると期待している。

【「先生この本読んで」のコーナー】

７　学年貸出・移動書架の活用

●今読ませたい本をファイルワゴンやコンテナで教室近くに置いた。児童がすぐに本を手にする環境を作ることができ，よく利用されていた。特に高学年は週１回の図書室利用の時間を確保することが難しく，身近に本があることで読書量を増やすことができた。

８　児童による選書会

●カタログ選書や見計らい本による選書会などで，児童が「読みたい」と思う本を購入した。新しい本の情報を得ようとしたり，新刊が届くのを楽しみにしたりする児童もおり，読書意欲の向上に効果があった。

９　配架の見直しと，オリエンテーション

●国語の指導内容に合わせワークシートを作り，担任がオリエンテーションを行った。十進分類にそって配架し直し，自分で返架させるようにした。慣れるまでに時間が必要だが，図書館利用のスキルアップにつながると考える。

10　読書賞の見直し

●仙台市子ども読書推進計画を参考に，学期毎に 30 冊以上の貸出で「読書賞」を，60 冊以上で「スーパー読書賞」を，年間 100 冊以上で「年間 100 冊読書賞」を贈ることとした。目標冊数を目指して積極的に図書館を利用する児童が増えた。

目標の達成状況

●発達段階に応じて計画的に利用指導を行ったことで，図書館活用のスキルが身に付きつつある。読書環境を整え，図書館運営に児童を関わらせることで，「自分たちの図書館」という意識が芽生え，読書意欲を育てることにつながった。１ケ月の読書量が 11 冊以上の割合が 40%を超えた。（昨年度は 25.9%）

取組を振り返って

●「読みたい本がすぐ手に届く所にあること」「読書に関心のある大人が身近にいること」「読む時間が確保されていること」「一緒に読書を楽しむ仲間がいること」を意識して読書環境を整えてきた。司書教諭・図書事務員が中心となり，児童・保護者・教師へ働きかけた成果があったと考える。本事業の予算で上記のような環境を整備することができたところが大きい。来年度以降も，読書意欲を向上させるべく，環境整備や広報活動に取り組みたい。

◆　注目 POINT　◆

・児童だけでなく，保護者や教職員が児童と共に読書活動に取り組めるような工夫を講じた。読書環境が整うことで，児童の読書に対する興味・関心が高まり，成果につながった。

馬場小学校

【児童数：18 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ 事業実施目標 ◆

児童が図書館や読書に親しむための環境整備や図書関連の催し，家庭との連携等を通して読書習慣の確立を図り，１か月平均読書数が５冊以上の児童の割合を 85%にすることを目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●読書に対する意識が高く，意欲的に読書する児童が多いので，学校図書館の利用は多い。その反面，個人差が大きく，読書にあまり親しまない児童との二極化が見られる。

取組内容　※【新】＝新規取組 【継】＝継続取組

１　児童・保護者・教職員による選書会の実施【継】

●児童は「読みたい本」，保護者と教職員は「児童に読ませたい本」の希望を，色栞を挟み込む投票形式にし，購入図書の選定を行った。

【貸出ベスト 10 の発表】

２　読書週間（11 月下旬）の実施【継】

（１）貸出ベスト 10 の発表，ベストリーダー賞の表彰

・貸出ベスト 10 を発表・掲示。わかくさ朝会で図書館から借りた本の冊数から，各学年のベストリーダーを選出し表彰した。また，読書や読んだ本に関するインタビューを行った。

（２）大型図書読み聞かせ・読書クイズ

・委員会の児童が中心となり，業間休みの読み聞かせや，給食の時間のクイズ出題等を通して，本の楽しさを伝えると共に，読書への興味・感心を高めるようにした。

３　ノーメディア読書ＤＡＹの実施【継】

●毎週木曜日に設定。学校だよりの月予定表に明示し，メディアコントロールと家族で読書する時間の確保の啓発を行った。また，木曜日の帰りの会で呼び掛けをし，金曜日の朝の会で取組状況等の把握を行った。

４　「冬休みに読んだ本を校長先生にお話ししよう」の実施【継】

●冬休み前朝会で呼びかけた。休み明けに一人一人休み時間を利用して校長室を訪れ，児童全員が読んだ本の粗筋や感想等を話した。

５　図書館のレイアウトの変更【新】と購入図書の紹介【継】

●ＰＣ室と併用の図書館だったが，クロームブックの配備に伴うＰＣ室の廃止により，書架や読書スペースのレイアウトを変更した。より広い空間で，椅子に座ってテーブルで読むことができる場所を増設した。また，レイアウト変更で生まれたスペースに，備品購入費で購入した書架を配置して，図書費で購入した図書を配架するなどして活用していく予定である。

取組による効果

１　児童・保護者・教職員による選書会の実施

●児童は，休み時間や国語の時間に何度も図書館に足を運び，展示された多彩な本を実際に手に取り，中身を見て，買ってほしい本を選んだ。学校だよりでお知らせすることで，多くの保護者が関心を持って参加し，児童の読書に対する意識向上につながった。

２　読書週間（11 月下旬）の実施

●期間中の様々な取組で，本の楽しさや読書することの楽しさを強調できたことで，図書館や本に親しみを持ち，読書への意欲や関心が高まった。

【大型図書の読み聞かせの様子】

３　ノーメディア読書ＤＡＹ【継】

●協働型学校評価では，保護者は，この取組が「読書好きな子供を育成している」に「よく当てはまる」「やや当てはまる」で 100%だった。一方，「お子さんは進んで取り組んでいるか」には 1/3 が「あまり当てはまらない」との回答があった。このことから，実際に児童の読書行動に結びついていない家庭もあり，読書量の差に結び付いているとも考えられる。

４　「冬休みに読んだ本を校長先生にお話ししよう」【継】

●冬休みに読んだ本について，校長が和やかな雰囲気の中で話を聞いたり引き出したりし，児童は本の楽しさを再認識し，読書への意欲を高めることができた。

５　図書館のレイアウトの変更【新】と購入図書の紹介【継】

●備品購入費で購入した書架に，図書費で購入した図書を配架し新着図書等を効果的に配架するなどして借りたくなるような配架を工夫していきたい。

目標の達成状況

●令和４年度の全校児童中，１ケ月の平均読書冊数調べで５冊以上読書する児童の割合は 66%と，目標の 85%には至らなかったが、前年度の 32%に比べ 34 ポイント増となった。一方，学校図書館における１人あたり年間平均貸出冊数は，前年に比べ約７割にとどまるというという低調な結果だった。このことから，読書冊数自体は向上しているが，それが図書館の本とは限らず，家で買った本や，移動図書館で借りた本等を読んでいると考えられる。

取組を振り返って

●読書への意識付けを図る取組を継続しているため，読書好きな児童が大半を占めている。その反面，家庭ではゲームや動画視聴等に時間を多く割いている児童も一部に見られることから，メディアと上手に付き合い，家庭における読書への関心を高めていきたい。

●本校の図書館は，下校バスまでの時間を過ごす「居場所」にもなっている。図書事務員は，児童とラポートを形成し，読書や居場所としての「図書館」の提供に心掛け，いつでも本を手に取れる時間を生み出している。図書館のレイアウトを変更したことにより，ゆったりとした広いスペースで本を読める環境ができたので，読書行動につなげられるようにしていきたい。

●蔵書数が充実しているため，「読んでみたい」という思いをできるだけ削がないように，貸出冊数のルールを変更し１回５冊までに増やし，本を家に持ち帰り，ゆっくり読むことができるよう改善を図れるよう検討したい。

◆　注目 POINT　◆

●児童・保護者・教職員による選書会の実施で，学校図書館と蔵書に対する興味・関心を喚起。

●学校図書事務員と児童とのラポートによる，休み時間や放課後の「居場所」としての学校図書館運営。

黒松小学校

【児童数：453 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・教科と関連した本を読むことで，読書の幅を広げられるようにする。
・学校・家庭ともに，児童が進んで本を読むことができる読書環境を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●本が好きで，積極的に読書をしている児童がいる反面，本にあまり興味を持たず，図書室に来ても，何を読めばいいか分からない児童もいる。
●学年が上がるにつれ，図書室の利用が減っている。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　ボランティアによる，読み聞かせの実施【継】

●読書の幅を広げ，本に関心を持てるように，全学年を対象に朝読書タイムを利用して読み聞かせを行う。

２　ボランティアによる，朝の図書貸し出し【継】

●毎週火曜日と木曜日の朝読書タイムに合わせ，ボランティアによる，始業前の本の貸出しを行う。

３　授業で使用する本の掲示【新】

●各教科に関連する本のコーナーを整備し，授業で活用しやすいようにする。
●移動書架を利用し，授業で活用できるようにする。

【英語の本のコーナー】

４　「家読の日」の設定【新】

●毎週水曜日を「家読の日」とし，図書便りやポスターで呼び掛ける。
●家読用のおすすめの本を掲示し，関心を持たせる。

５　英語の絵本等の配置【新】

●外国語教育において，児童の興味・関心を喚起できる英語の絵本などを置くことで英語に親しませる。

取組による効果

１　ボランティアによる，読み聞かせの実施

●全学年で読み聞かせを実施した。どの学年でも本の内容に集中し，楽しむ様子が見られた。物語に限らない様々なジャンルの本の読み聞かせにより，読書への関心を高めるきっかけにつながった。

２　ボランティアによる，朝の図書貸し出し

●学校支援ボランティアの方に協力をいただいたことで，朝の時間を有効に活用し，本を貸し出すことができた。

３．授業で使用する本の掲示

●各教科の本をまとめて配置した。授業で使いやすいよう，目立つように掲示を行った。特に「総合的な学習の時間」では，福祉や環境に関する本を目立つように配置することで，図書を活用することが増えた。

●移動書架を利用し，学年ごとに教科に関連した本をまとめて貸し出すことができた。

●月ごとに各教科に関連する本をブックスタンドに飾り，図書室に入って目に付きやすい場所に飾ることで，手に取る児童が多くいた。

【総合的な学習の時間の本の掲示】

４　「家読の日」の設定

●家読の日におすすめの本コーナー「ケロちゃん文庫」を設置し，様々な本に触れる機会になった。毎月テーマを変えて掲示した。

●図書便り「ケロちゃんだより」で「家読の日」について呼び掛けを行った。「家読カード」を使用し，冬休みに全校で取り組み，保護者からのコメント欄を作り，保護者との読書の時間を確保することができた。

５　英語の絵本等の配置

●図書室に英語の本のコーナーを作り，手に取りやすいように配置し，読書の幅を広げることができた。

目標の達成状況

●月ごとに教科に関連する図書の掲示を変えたり，「家読コーナー」も月ごとにテーマを変えて掲示したりすることで，児童の関心を高めることができた。読書の幅を広げることを意識して取り組むことができた。

●今年度新たに「家読の日」を設定し，家庭での読書を推進することができた。家読カードで保護者からコメントをもらい，家庭での読書への意識を確認することができた。

取組を振り返って

●教科の学習に関連する本をきっかけに読書の推進を進めることができた。朝の図書室開放に利用が昨年度より約２倍に増え，自ら本に関わろうとする児童が増えたように感じる。読書の幅を広げることを意識した本の掲示が効果的だったため，今後より様々なジャンルの本を手に取れるような掲示を心掛けていきたい。

●学校での児童の読書の様子は分かるが，家庭での読書の様子は見えないため，「家読カード」などを使用し，家庭での様子を知ることができ，よかった。今後も学校・家庭ともに進んで本を読むことができるよう，児童・保護者・教職員の意識を高めながら取り組んでいきたい。

◆　注目 POINT　◆

●幅広いジャンルの本に関心を持たせる読書環境の整備や，掲示の工夫。

●全校で取り組んだ「家読カード」の活用による，家庭との連携。

将監西小学校

【生徒数：181 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・児童が図書館や読書に親しみやすい環境を整備することにより，読書習慣の確立を図る。
・教科書で紹介されている本を中心に，読書活動の質的向上を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●図書室活用が定着しておらず，足を運ぶ児童が少ない。
●読書傾向に偏りがあり，学習漫画ばかり読む児童が多い。
●棚板の高さが変えられない本棚が多く，本の配置を工夫しづらい。
●本の場所が児童にわかりにくく，自力で本を探しづらい。大規模改修を機に，図書室内のレイアウトを思い切って大きく変更したい。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　図書室の環境整備【新】

●図書室の一角に購入したフロアマットを置き，座って本を読めるコーナーにした。
●本棚を集め，本を選ぶエリアと本を読むエリアを分けた。
●大規模改修のための移動に乗じ，本棚で隠れていた掲示板が利用できるよう本棚を配置した。図書委員によるおすすめの本の紹介ポスターを掲示した。

２　本の配置の変更【新】

●作家ごとの配置になっていたが，絵本を１箇所に集めるなどよく読む学年に合わせた配置に変えた。配置を替えるために購入したブックトラックを活用した。
●フロアマット周辺に低学年が好む本を集めた。

３　教科書で紹介された本の読書の推進【新】

●点在している教科書で紹介されている本を，学年ごとに集め，児童が探しやすいようにした。また，目印を付け，児童にも見分けがつくようにした。読んだ児童の教科書にシールを貼った。

４　多読賞等の設定【継】

●月に 10 冊以上読んだ児童に毎月２冊貸出し券を発行した。
●12 月に実施した読書週間までに 50 冊以上の本を借りた児童に多読賞を渡した。貸出冊数の多い順に，34 人まで掲示して表彰した。図書委員も，読書週間に向けて，図書室の本を読まないと解けないクイズを低中高学年向けにクロームブックで作り，読書を勧めた。

５　児童・保護者による選書会の実施【新】

●７月の学校参観日に合わせて保護者・地域の方も対象にした選書会を実施した。

●11 月に，児童向けの選書会を実施した。

●図書購入費は全て，選書会で選ばれた本に使用した。

【児童と保護者による選書の様子】

取組による効果

1　図書室の環境整備【新】

●フロアマットを置くと，低学年で賑わっていた。また，集中して本を読む姿が見られた。
●本棚を集め，エリアを分けたことで，静かに本を読むスペースが生まれた。
●図書委員のおすすめの本を探して借りる子も見られた。

【図書室内のレイアウト】

2　本の配置の変更【新】

●絵本を１箇所に集めたことで，低学年の児童でも，本を自分で選びやすくなった。フロアマットに座りながらゆっくり本を探す姿も見られた。

3　教科書で紹介された本の読書の推進【新】

●図書の時間に，教科書で紹介されている本を集めた本棚に学習中の本を探す子が集まるようになった。シリーズ物を一緒に置いたところ，シリーズで読み物を読み進める児童も見られた。

4　多読賞等の設定【継】

●毎月の２冊貸出し券を季節の絵柄で発行したところ，全て集めようと，継続して読書に励む児童が増えた。

5　児童・保護者による選書会の実施【新】

●選書会では，様々な分野の本が展示されていたため，今まで読んだことのない分野の本にも関心を持ちながら選書していた。
●選書した本が購入されると，自分達で選んだ本という意識が高いことから，人気を集めていた。

目標の達成状況

●１ケ月の平均読書冊数が５冊以上の児童の割合は，昨年度は46%だったが，今年度は60%に増えた。また，２冊以下しか読まない児童の割合は，昨年度は25%だったが，今年度は20%に減った。今年度の取り組みを通し，これまで読書にあまり興味が無かった児童も，比較的読書をしていた児童も，読書量が増加したことが分かる。目標であった読書習慣がついてきている。
●読書活動の質的向上を目指したが，今年度の取り組みでは，個人差が大きいままだった。さらなる工夫を検討していきたい。

取組を振り返って

●今回の取り組みを通し，児童による選書や図書委員による本の紹介など，児童を主体とした活動を積極的に行うことは，より本に興味をもつきっかけになると感じた。
●担任している学級では，教科書に集めたシールや集めた２冊貸出し券を見せ合ったり，おもしろかった本を友達に紹介しあったりする姿が日常的に見られるようになった。教師が意識して取り組むことで，児童の読書への意欲はこんなにも向上するのだと改めて実感した。

◆　注目 POINT　◆

●フロアマットスペースの設置や，教科書に紹介されている本のコーナー設置等，レイアウトを工夫し，児童が本にふれあう機会を増やした。
●図書委員会の児童を中心に，児童の主体的活動として読書量改善に取り組んだ。

南吉成小学校

【生徒数：526 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が利用しやすい図書室の環境整備に取り組み，読書習慣の確立を図るとともに，年間 50 冊以上読書する児童の割合が 80%以上になることを目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●児童数に対して図書室が狭く，コロナ禍や雨天時等の利用で支障がある。
●学年が上がるにつれ，年間の読書冊数が低下する。

取組内容　※【新】＝新規取組 【継】＝継続取組

１　「家読の日」の設定【新】

●２学期以降，毎月第３土・日曜日を「ノーメディアデー」に設定したため，この日を「家読の日」とし，保護者にも呼び掛けて読書週間の確立を図った。音読カードなどに読んだ本を記載するなどし，家での読書週間の確立を図った。

２　移動書架の設置【継】

●図書室内や教室前のワークスペースに移動書架を更に配置し，気軽に図書を手に取ることができる環境を整えた。

３　図書室のスペース拡大（年度途中から）【新】

●図書室と隣接していたパソコン室が，令和４年秋以降に PC 撤去のため空き教室となった。可動式の壁をたたむと，一つの大きな部屋にできるため，旧パソコン室を第２図書室（上学年用）として整備した。また，授業での利用を更に拡大できるよう，図書費で購入した上学年の調べ学習に役立つ本や読み物を配置した。また，備品購入費で購入した展示用書架を利用して，様々な本が児童の目に触れるようにした。

【第２図書室（旧パソコン室）】

４　図書まつりの充実【継】

●図書委員会を中心に図書まつりを実施し，図書室の利用を促した。

５　児童による選書会の実施【継】

●コロナ禍で密防止のため，２年間実施を見送っていたが，本への興味関心を高めるため，拡充されたスペースを活用して選書会を開催した。

取組による効果

１　「家読の日」の設定　【新】

●「ノーメディアデー」に関しては，保護者が意識し始めている様子がアンケートの記述からも見て取れた。家読を始めた 11 月の図書の貸し出し冊数は，10 月と比べると学級平均で２冊～５冊程度増えたことから，読書への意識が高まったと考えられる。

●令和４年度の児童生徒の１か月の平均読書冊数を見ても，前年度 11 冊以上が 26%だったものが 29.3%になり，若干ではあるが増加傾向が見られた。

２　移動書架の設置【継】

●図書室を気軽に利用できないことも多かったが，常に本を手に取れる状況を確保し，読書習慣が定着した。

３　図書室のスペース拡大（年度途中から）【新】

●本を探しやすく，落ち着いて読書できる環境が整備され，図書室を訪れる児童が増えた。３月に整備完了したため，貸出冊数に変化が出るかは次年度以降に様子を見ていく。

【環境整備した図書室内】

４　図書まつりの充実【継】

●スタンプラリーやクイズなどを企画し，低学年を中心に通常より多くの児童が図書室を利用した。

５　児童による選書会の実施　【継】

●選書に参加し，図書室に児童の読みたい本が増えたことで，図書室に行ってみようという意識付けになった。選書会の実施後の平均貸出冊数も増加傾向が見られた。

目標の達成状況

●令和４年度の全校児童中年間 50 冊以上読書する児童の割合は 42%と，目標の 80%には至らなかった。図書室改装のため例年より１か月早く貸し出しを停止したことも，貸出冊数が伸びなかった原因と考えられる。児童が利用しやすい図書室の環境整備が整い，休み時間に実施していた学年ごとの利用制限も撤廃できるため，令和５年度も継続して取り組みたい。

取組を振り返って

●令和４年度までは，児童が図書室を利用したいと思っても利用しにくい状況が続き，本に触れる機会が減少していた。移動書架や学級貸出，市民図書館の朝読パック利用などできることは行ってきたが，貸出冊数を大きく伸ばすまでには至らなかった。

●学校図書館運営モデル校に決定したことをきっかけに，児童にとってよりよい読書環境の整備を進めることができた。次年度以降に確実な成果が得られるように，取組を継続していきたい。

◆　注目 POINT　◆

●ノーメディアデーに合わせた「家読の日」の設定

●図書室のスペース拡大などの環境整備

秋保中学校

【生徒数：53 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

本をよく読む生徒も読まない生徒も，ともに読書を楽しむことのできる環境を整備することにより，特に本を読まない生徒の読書習慣の確立を図る。そして，全校生徒中１ヶ月の平均読書冊数が３冊以上の生徒の割合が合計 70%になることを目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●本をよく読む生徒と本を読まない生徒に二分されている。
●図書館に足を運ぶ生徒は多いが，貸出冊数はあまり多くない。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　読書週間の設定【新】

●４月と９月と３月に読書週間を設定し，それに合わせた館内掲示を行った。
●３月の読書週間では，読書カードを配付し，保護者と連携しながら読書習慣の定着を図った。

【おすすめの本コーナー】

２　図書委員会による，蔵書紹介コーナーの設置【継】

●図書委員がポップを作成し紹介した。図書費で購入した，国語の教科書に紹介されている本や話題の本，図書委員が選んだ本，教職員がオススメの本など，幅広いジャンルの本を紹介した。

３　移動式書架の設置【新】

●備品購入費で購入したブックワゴンを各階に配置し，図書委員による移動図書館を実施した。

４　お気に入りの一冊を紹介するコマーシャル映像の作成【新】

●コマーシャル映像を作成し，備品購入費で購入したプロジェクターを使用して，図書館内に上映した。

取組による効果

１　読書週間の設定

●読書週間だからという理由で，図書室に足を運ぶ生徒が見られた。加えて，読書カードには，「読書週間がきっかけで本を読めたので，これからも読んでいけるようにしたい」や「好きな本が増えた」といったコメントがあり，生徒・保護者の読書への関心を高めることができた。

２　図書委員会による，蔵書紹介コーナーの設置

●図書委員はポップを作成するために本を読み込み，理解が深まった。また，一度も本を借りたことのなかった生徒が，ポップをもとに興味を持ち，本を借りていくなど，生徒の読書のきっかけとなった。

３　移動式書架の設置

●生徒たちにとって，普段読まないジャンルの本を手に取る機会となった。関連本を図書館に借りに来る生徒もいた。

【コマーシャル映像】

4　お気に入りの一冊を紹介するコマーシャル映像の作成【新】

●ＣＭに興味を持ち，図書館を訪れる生徒が多く見られた。さらに，「ＣＭで紹介されていた本についてもっと知りたい」といった声が寄せられた。また，ＣＭ作成を通して，生徒たちの本への理解が深まった。

目標の達成状況

●令和４年度の全校生徒中１ヶ月の平均読書冊数が３冊以上の生徒の割合は，34％と目標の 70％には至らなかった。ただ，12 月の貸出冊数が 100 冊を超えるなど，各種活動が読書量の増加につながったと言える。この結果を参考に，来年度からも，本をよく読む生徒にも，読まない生徒にも本の楽しさを伝えられるような取組を検討していきたい。

取組を振り返って

●読書習慣の形成には，まず，本に興味を持たせることが必要だと考える。そこで，秋保中学校の図書館の蔵書量や掲示物の華やかさに注目し，図書館に足を運ばせることで，本に興味を持たせられるような取組を考え，実施した。数値目標を達成することはできなかったが，生徒の本への興味・関心を高めることはできたと感じている。

●秋保中学校の生徒の読書の幅を広げるのには，友達や教師といった身近な存在のオススメが有効であることが分かった。
これからも，学校と保護者で連携しながら，図書館を中心にして生徒が本に興味を持つことができるような取組を行っていきたい。

◆　注目 POINT　◆

●移動式書架･･･図書館に足を運ばない生徒も本に触れる機会をつくることができた。また，生徒の行動範囲内に本があることで生徒の興味，関心をより集めることができた。

●コマーシャル映像･･･生徒たちにとって活字よりも身近な映像を利用することで，本に興味を持つ生徒が増えた。また，ＣＭが図書館へ足を運ぶ動機となった。

【移動式書架】

【掲示物】

鶴谷特別支援学校

【児童生徒数：149 人】
（Ｒ４．５．１現在）

◆ 事業実施目標 ◆

・教育目標達成のために，図書館の機能を十分活用できるようにする。
・教育課程の展開に寄与し，児童生徒の望ましい学習態度と健全な教育の育成のために視する図書資料を収集・整理し，これを児童生徒の利用に供する。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●本校の児童生徒の実態及び読書傾向に合った図書を購入し，蔵書の充実を図ることが課題である。
●図書管理システムを活用した図書の管理，貸出返却業務，図書検索できる体制を構築することが課題である。

取組内容　※【新】＝新規取組 【継】＝継続取組

１　購入希望図書のアンケートを実施，回収と分析（６月）【継】
２　蔵書の点検・整理と並行し，図書管理システム登録（７～８月）【新】
３　図書選定と購入（７～８月）【継】
４　貸出し準備（展示紹介），貸出し開始（12 月）【継】
５「立ち読み処」の充実（通年）【継】
６　図書室の環境整備，図書委員の活動（掲示物）（通年）【継】
７「本の病院」の設置（通年）【継】
８　移動書架の活用（通年）【新】

取組による効果

１　図書の選定と購入

●児童生徒が興味を持つ新しい図書を購入することで図書室の蔵書の充実が図られ，図書室利用が促進し児童生徒の良好な読書習慣を身に付けることにつながった。

２　図書管理システム

●図書部の職員が夏季休業中に全ての蔵書にバーコードを貼り，登録を行った。職員が協力して作業することで，図書システムの使用方法について共有することができた。今後の貸出し返却業務にどのように活用するか検討していく。

３　図書委員会と環境整備

●図書委員会が読書啓発の掲示物や季節ごとの飾りを作成して図書室や廊下を装飾したことで，児童生徒にとって親しみやすい図書室となった。また，破れているページを見つけてテープを貼るなど本の修理にも取り組んだ。

４　移動書架

●高等部の廊下に備品で購入した移動書架を配置した。生徒が興味を持つ本や学習に役立つ本を

選書したことで，高等部生徒が気軽に本を手に取ることができるようになった。

目標の達成状況

●蔵書のバーコード貼付と登録がほぼ完了した。図書事務員不在の中，システムの運用方法を書店に質問しながら行う根気のいる作業だった。図書管理システムに本を登録することで，適切な蔵書管理をする土台ができた。
●図書委員会担当教諭と連携し，図書室の環境整備や移動書架の活用を推進することができた。また，破れたページを見つけてテープを貼るという簡単な修復作業を生徒が体験することができた。

取組を振り返って

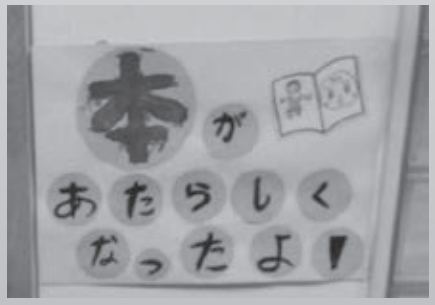
●これまで継続した取り組みに新しい工夫を加えることができた。特に図書委員会の活動は充実したものとなった。図書委員会が作成した掲示物で図書室の雰囲気が明るくなった。

◆　注目 POINT　◆

●鶴谷特別支援学校において，令和４年度，特に頑張って取り組んだことは，図書部の職員で全ての蔵書にバーコードを貼り，登録を行ったことである。図書管理のシステムに本を登録することで，適切な蔵書管理をする土台ができたが，今後は貸出返却業務にどのように活用するかが課題である。
●図書委員会担当教諭と連携をし，図書室の環境整備や移動書架の活用に取り組むことができた。そのことがきっかけで，生徒が本に興味を持ったり，図書室に行くのを楽しみにしたりする児童・生徒が増えたように感じる。

【システムへの本の登録作業】

【移動書架の活用】



【図書委員会高等部生徒が作成した掲示物】

（3）令和4年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において，その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し，解決に向けた取組を行っていただきました。

また，令和４年度も，新型コロナウイルス感染症の影響により，引き続き感染症対策の観点も踏まえた学校図書館の運営となりました。そのような状況の中で，各モデル校においては，児童生徒の本への興味関心を引き出す多様な取組をご検討いただき，読書活動を推進していただきました。

小学校では，図書室のレイアウト変更や配架の見直し，備品購入費で整備した移動書架を活用して，児童が利用しやすい図書室の環境整備や，本が身近にある環境づくりを行うなど，読書環境の充実に力を入れた学校が多くみられました。また，「家読」の取組として，家読おすすめ本コーナーの設置や親子で本の感想を伝え合った学校など，様々な工夫を行いながら児童の読書習慣の確立に力を入れていただきました。

ほとんどのモデル校において，司書教諭や図書事務員が中心となり，教職員はもとより保護者も含めた取組を多く行っていただき，学校・家庭における読書活動の活性化を図っていただきました。

中学校では，本に興味をもってもらうため，本を紹介するコマーシャル映像を作成し，図書室で上映するという新しい取組を行っていただきました。また，学校の図書室の特徴を生かして生徒の本への興味・関心を引き出し，読書習慣の形成を図っていただきました。貸出冊数の目標には届かなかったようですが，様々な取組が生徒の読書量の増加につながっていることから，今後も引続き本の楽しさを伝えていただき，少しでも生徒の興味や理解が深まるような読書活動を推進していただきたいと思います。

特別支援学校では，図書管理システムを活用した図書の管理体制を構築し，蔵書管理の土台ができました。加えて，高等部には新たに移動書架を配置し，生徒が気軽に本を手にすることができる環境整備をしていただきました。また，図書委員会の「本の病院」の取組として，破れているページを見つけて本の修復作業を生徒が体験するなど，これまでの取組を継続しながら新しい工夫を加え，活動の幅を広げていただきました。今後も取組を継続・発展させながら児童生徒の読書活動を推進していただきたいと思います。

どのモデル校も，子どもの読書活動を支える環境を整えるべく工夫を凝らした取組を実施してくださいました。各モデル校には，今回の事業の実績を踏まえて，次年度以降も引き続き取組を推進していただければと存じます。また，令和４年度の実施内容や，実施した結果，新たに明らかになった課題などを他校にも積極的に共有していただくことで，本市における学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと考えております。

結びに，真摯に活動に取り組まれた令和４年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方，並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

令和４年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

令和５年 10 月発行
仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒980-0011　仙台市青葉区上杉一丁目５番 12 号
TEL：022-214-8886　　FAX：022-268-4822
Email：kyo019310@city.sendai.jp